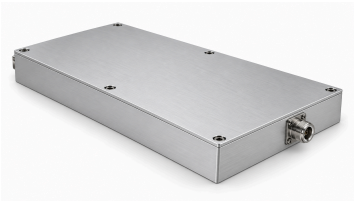
1250–1350 MHz RF電力増幅器、利得55 dB以上

各ページの見出しと周波数表は1250–1350 MHzを指定しています。単一周波数での飽和出力は57 dBm以上、利得は55 dB以上、高調波抑圧は20 dBc以上です。RS-485 A/B接点と380×250×30 mmの本体図があります。動作電流は45 A、ピン5はNC（未接続）です。



電気的仕様 +28.0 V DC; 25°C; 50Ω

項目	記号	最小値	代表値	最大値	単位
動作周波数	BW	1250	-	1350	MHz
飽和RF出力電力[1]	Psat	57	-	-	dBm
出力電力調整範囲	Pout	37	-	57	dBm
出力電力調整ステップ	-	-	-	0.5	dB
電力利得	Gp	55	-	-	dB
出力電力精度[2]	ΔP	−0.5	-	+0.5	dB
帯域内平坦度	-	-	-	3	dB
入力 VSWR	-	-	-	2.0:1	-
出力 VSWR	-	-	-	2.0:1	-
高調波抑圧	H	20	-	-	dBc
スプリアス抑圧	Spur	50	-	-	dBc
出力結合度[3]	C	49	-	51	dB
消費電力	PDC	-	1250	-	W

動作電流

項目	値	単位
動作電流	45	A

監視・保護要件

項目	値
利得制御動作モード	原資料に記載された要件
動作状態の報告	原資料に記載された要件
異常状態アラーム	原資料に記載された要件
電力状態の表示	原資料に記載された要件
出力 VSWR 保護	原資料に記載された要件

監視・保護要件

項目	値
過熱保護	原資料に記載された要件
過電圧保護	原資料に記載された要件
過電流保護	原資料に記載された要件
小信号入力での正常動作	原資料に記載された要件

絶対最大定格

項目	値	単位
非破壊RF入力レベル [1]	+10	dBm
負荷VSWR耐量 @Pout = 500 W [2]	5:1	-
熱過負荷による停止 [3]	85	°C

[1] 最大
[2] 全負荷位相。 原資料は連続振幅と記載。
[3] アンプ停止。

環境仕様 — 設計目標

項目	最小値	代表値	最大値	単位
動作温度	-20	-	50	°C
保存温度	-25	-	65	°C

RF・電源／制御コネクタ

インターフェース	仕様
RF入力コネクタ	SMA、メス
RF出力コネクタ	N、メス
結合 RF 出力コネクタ	SMA、メス
電源コネクタ	D-SUB 9W4 (コネクタの正確な品番は未記載です。)

DCインターフェースのピン配置

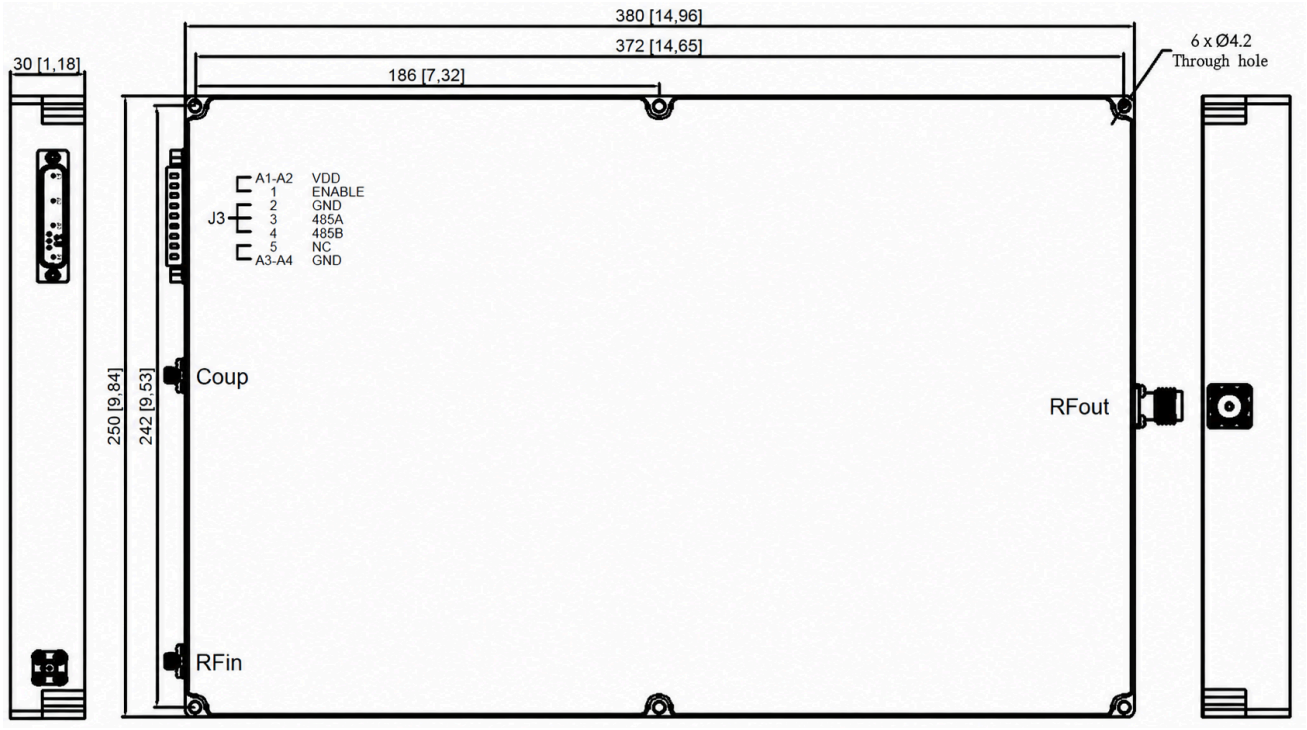
ピン番号	説明	仕様
A1	VDD	+28 V
A2	VDD	+28 V

DCインターフェースのピン配置

ピン番号	説明	仕様
A3	GND	接地
A4	GND	接地
1	ENABLE	アンプイネーブル：TTLハイ（3.3 V）、内部プルダウン。
2	GND	接地
3	485A	RS-485シリアル通信
4	485B	RS-485シリアル通信
5	NC	未接続

機械的仕様

項目	値	単位
筐体寸法	380 × 250 × 30 (機械図に基づく本体寸法。コネクタの突出部は含みません。)	mm
取付穴中心間距離	372 × 242; 186	mm
取付穴	6 × Ø4.2	mm



文書に関する注意

仕様は製品の更新に伴い改訂される場合があります。設計を確定する前に、現行の文書改訂版と製品固有の要件を LCRF に確認してください。供給構成は承認済みの見積書および注文書類で定義されます。